





お母さんたちは？

わからん：  
でもきつと

どこかで  
おなじように  
浮かんでいるよ

とにかく  
掴まれる  
ものを探そう！



しかし……

うわあっ



私たちは  
他の乗客の  
女性と一緒に  
袋のようなものに  
掴まりました



お父さん！  
お父さん！  
お父さん！

盛りよし  
……！！



もうダメだ...

もりよし  
盛宜...

わたし  
私はその時、  
ちちの言葉  
父の言葉を  
おもいだ  
思い出しました

もし船が攻撃されて  
沈んだ時  
波から逃げるように  
泳いじゃダメだ

なみ  
波に向かって  
およ  
泳ぐんだ

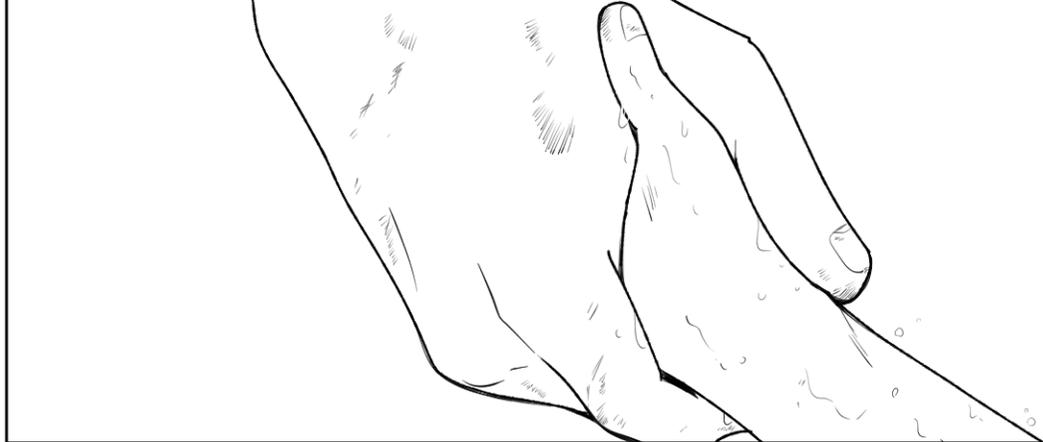


そうだ！

およ  
泳がなきゃ

なみ  
波の方へ……！

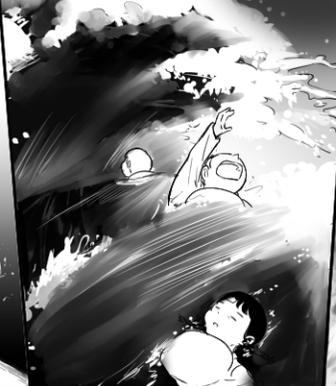




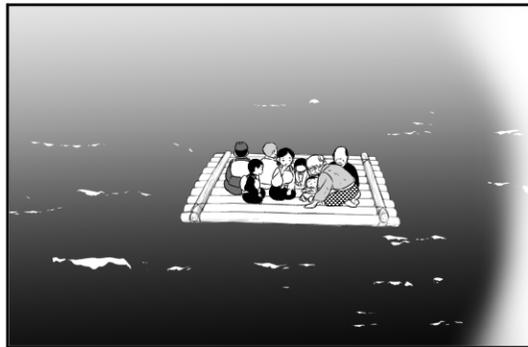
対馬丸の  
事件では  
魚雷での攻撃や  
沈没に巻き込まれ

当時は台風が  
近づいていて  
高波にのまれ

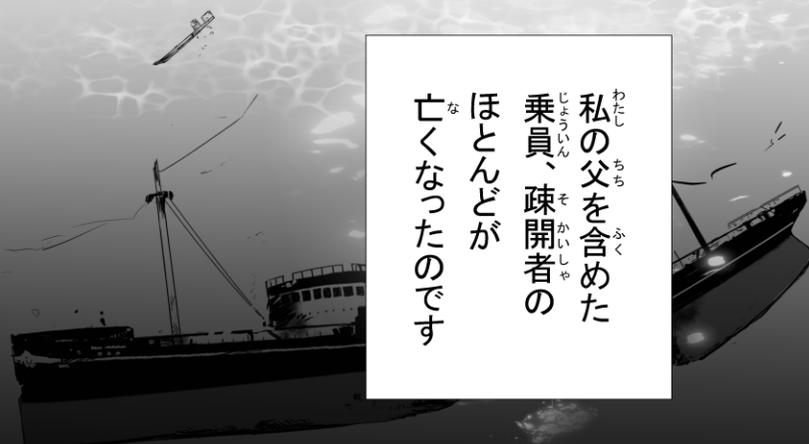
流され  
筏や浮くもので  
なんとか命を  
つなぎ止めても…



救助されず  
何日も  
漂流し

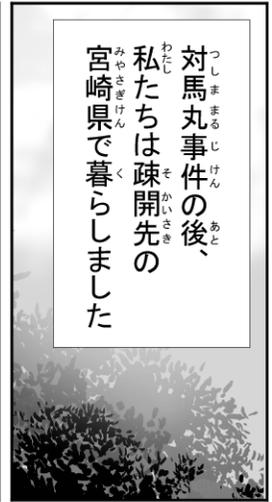


私の父を含めた  
乗員、疎開者の  
ほとんどが  
亡くなったのです





盛好が  
お金を全部  
持ったまま  
沈んだから  
大変な事  
になったな



対馬丸事件の後、  
私たちは疎開先の  
宮崎県で暮らしました



福岡県 門司駅



しばらくして祖母と  
関係が悪化し  
私は家を飛び出して  
しまいました



その後  
母が亡くなり  
妹は叔母のもとへ  
私は祖母に  
引き取られること  
になったのですが…

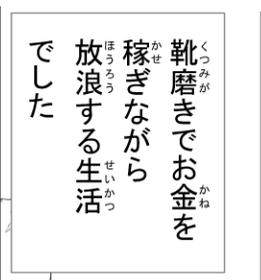


九州を出て  
横浜まで  
行った時の  
ことです

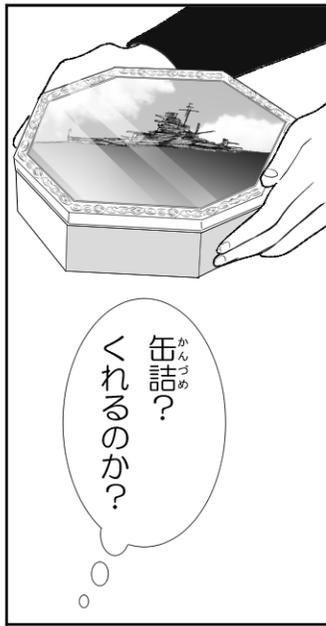
へい!



ガタン  
ガタン  
ガタン

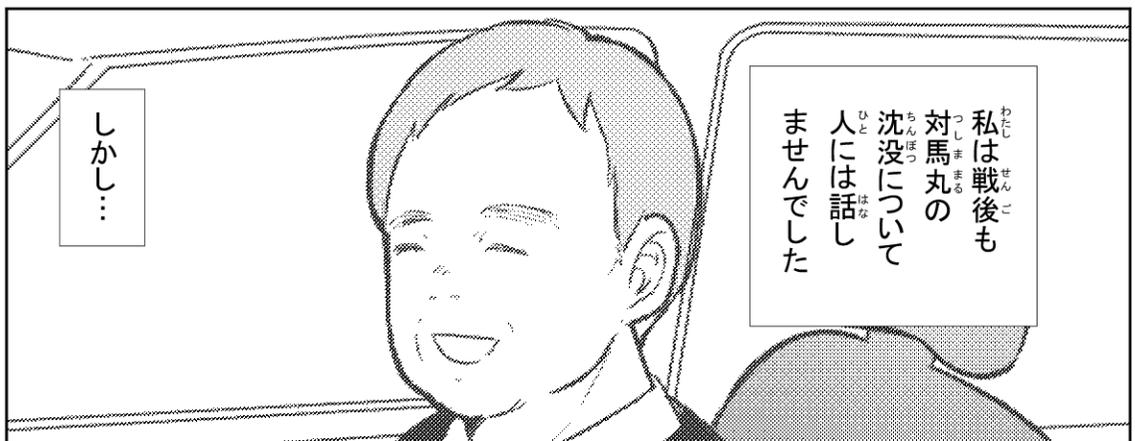


ここで私は  
終戦を迎えました  
靴磨きでお金を  
稼ぎながら  
放浪する生活  
でした

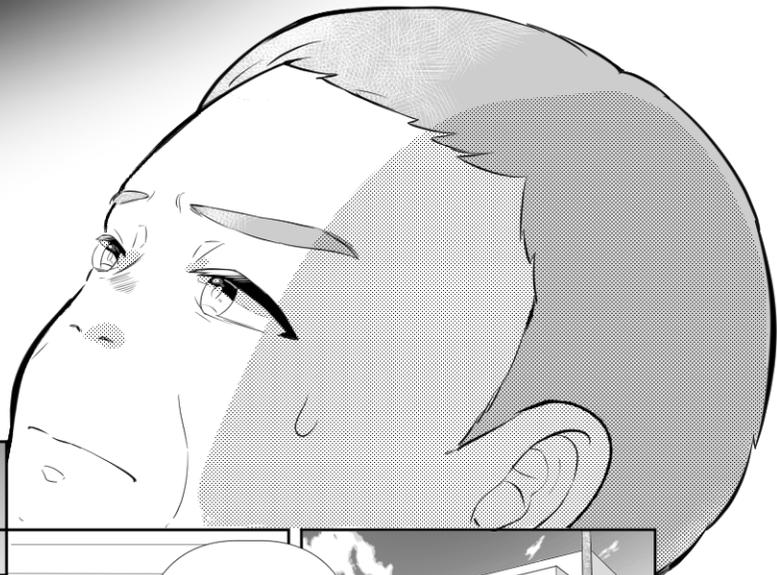


そりや  
勝てるわけ  
ないな……



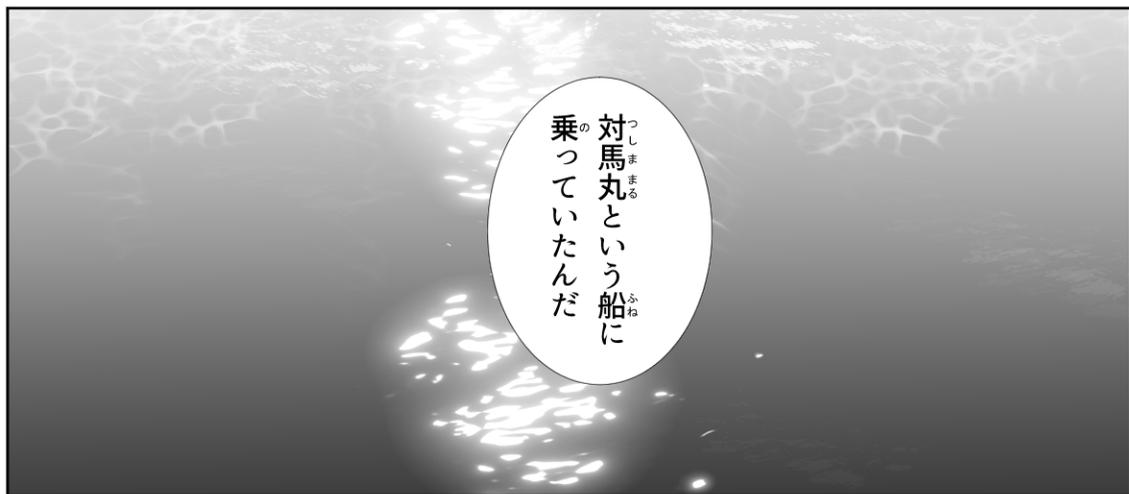






喜屋武さんは  
戦争の時、沖繩に  
いらしたんですか？

……ああ  
そうなんだけど



対馬丸という船に  
乗っていたんだ



死を意識  
したことで

戦争について  
聞かれた時、  
この経験を  
話すように  
なりました



つしまるるきねんかん  
対馬丸記念館



俺も  
行くからな...

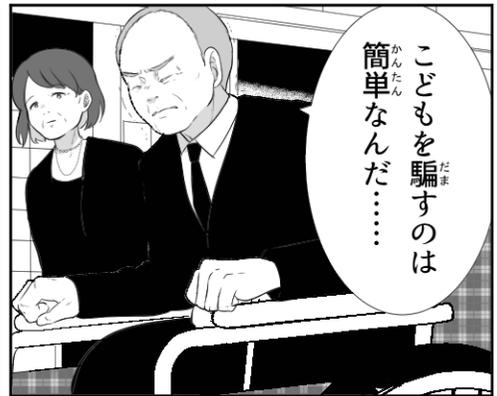


お父さん

喜屋武 盛好



私は妹と  
記念館に  
父の遺影を  
寄贈しました



この<sup>へい</sup>平和<sup>わ</sup>が  
いつ<sup>つ</sup>までも  
続<sup>つづ</sup>きます<sup>す</sup>ように

